

# Final Report of Laura Ferradino

## Child Aid - Nhamatanda

### Mozambique

#### 2007年9月～12月: モザンビークでの4ヶ月間

私がニャマタンダのチャイルド・エイドで働くことを決めたのは、このプロジェクトはとて「幅広いプロジェクト」だと考えたからです。私は、このプロジェクトが、私に異なる分野で働く機会を与えてくれるものだと考えていました。ここでの異なる分野とは、オフィスでの普通の仕事から、最も重要なことを学ぶことができるコミュニティでの興味深い仕事のことです。

私がここに到着して以来、私は自分のその考えが正しいことであると実感しました。ニャマタンダのチャイルド・エイドは、大きなプロジェクトです。もし、私がここに1年間滞在することができたとしても、本当によく活動地域と内容について十分に知ることはできないと私は思います。

私は、CICDで、アフリカへの夢に向けてDIとしての時間を費やし、決して諦めずに、時間いっぱい働いて勉強しました。その時間は、確かに簡単なものではありませんでした。しかし、今、もし誰かが私に何でそのような道であったのかの説明を求めても、私は何も思い出すことができません。

私がモザンビークで生活している時間は、とても美しく、何にでもスペースでも与えます。私は毎日、新しいものを見て、学んでいます。

モザンビーク・ニャマタンダへの私の到着は、そう簡単ではありませんでした。私はこの大きなプロジェクトで、すっかり迷いを感じていました。私には、言語の問題と、現地の人々がどのように働いているのかを理解するのに時間が必要でした。私達DIにとって、彼らの考え方や価値観を理解するのは、とても困難なことです。私達は「私達にとって何が困難であるのか」ということを話すために、毎夕方、私達の家で会いました。私達の間で話していたことは、モザンビーク人についてです。彼らはなぜいつも幸せなのか、なぜいつもそう遅れ来るのか、なぜ700回も同じ議題について話すのか、どのようにして彼らは休憩もなしに1時間半、私達を乗せて自転車をこぐことができるのか、どのようにして何時間も踊り、いつでも歌を歌い始めることができるのか…。私達の間でいつも彼らについて話をしてきたことは、彼らを理解するためにいい方法でした。

他のチャイルド・エイドのDI達と一緒に、私達は栄養についてのプレゼンテーションを行いました。私達はメニュー表を作り、いくつかのマンゴーの絵を描きました。プレゼンテーションの最後には、彼らは私達に「私達は毎日、ただ木のマンゴーを食べたほうがいいのか？」と尋ねてきました。なぜならば、私達は3つのマンゴーだけを描いたからです。

私は、2ヶ月少しを、「プロジェクトでどれが私の仕事になるだろうか」を理解することに費やしました。なぜならば、誰も何がDIの仕事であるかをはっきりと説明しなかったからです。この現実の中で私は自分に小さな訓練を課し、2ヶ月後には、私は確かにCena（現地語）でコミュニケーションをとることができました。コミュニティでは、ほとんどの人々がポルトガル語を話しません。3ヶ月間、年長のMadrinha（プロジェクトで働いているボランティア。彼女は、5人の孤児の世話をしている。）は、私と

Cena 語で会話することを続けました。おそらく、彼女は本当に私が Cena 語を完璧に理解していると考えていたのでしょう。

最初の 2 ヶ月間、私はここは私の場所ではないと考えていました。そのため、私はとてもストレスを感じていました。もちろん、あなた達が 6 ヶ月間だけをもっているとき、あなたは全てを理解しなければなりません。そして今があります！しかし、現実はそのようにはなりません。私は、地域と私と一緒に働いていた人々とを知ることができました。そして、コミュニティで私の仕事をするために、1 人で行動することができました。あなた達は、プロジェクトが DI 達と一緒に、又は DI 達なしで運営していることを理解しなければなりません。ここでは、ほとんどの人は私達のために待っていません。私達が働くか、または働かないか—それは、私達次第です。プロジェクトにとって、何が私達の仕事であるかを見つけることは、私達の仕事であり、それは私達次第です。

ちょうど今、私は自分のための時間がありません。私は、どれを最優先にするかわからないこともあり、とても多くのことをするのに忙しいです。

ニヤマトンダのチャイルド・エイドは、2 つのプログラムと一緒に働いています。1 つは RITA(Reduced Impact and Transmission of HIV/AIDS)プログラム、もう 1 つは AGSP (Ambassadors Girls Scholarship Program)プログラムです。ちょうど今、私達は結核についてのプログラムを始めているところです。これは、とても TCE と似ています。

私は特に、AGSP で働いています。1 つのプロジェクトは、学校の孤児の女の子たちの立場を、奨学金を与えることやクラブで同じ時間を共有することによって、彼女達を支援することに焦点をあてています。

しかし、私はたいがい、オフィスで文章を作成する人や計画を発案する人を手伝っています。時には、コンピューターや会計の問題も手伝います。私達のプロジェクトは、食糧と衣類を配布しているので、私がプロジェクトを去る前に一度、AGSP のこの活動を見たいと思っています。

私は、どのようにしたら、こう組織体制を乱すことができるのかが理解できません。活動地域は大きいですが、いつも同じ 29 つの学校があるだけです。そのため、よい計画を立て、いつも同じようにすれば十分です。しかし、アフリカでは、何でもそう簡単にはいきません。。。。

私は、学校のあるクラブを担当していました。それは、Madrinhas に彼らの仕事は何であるのか、そして、女の子達に衛生について少しの概念を教えるためです。私の目的は、少女達と一緒に、Madrinhas をもっと責任のある立場に育てることです。私は、本当に彼らのプログラムでの活動を見たいです。それは、ただ、食糧配布のためにここにいるのではありません。

私は、地域ももっとよく知り、特に彼らの仕事をチェックするために、トレーナーと看護師達と一緒に周囲を見て回るつもりです。このようなプロジェクトでの DI 達の主な仕事は、監督です。コミュニティにはボランティアの監督がいます。私達は、問題を解決しなければなりません。そして…もし、私達が問題を解決できなかったならば、プロジェクトリーダーに伝えます。プロジェクトリーダーは、ほとんどの時間がレポート作成と管理問題の仕事で忙しいため、DI 達はコミュニティで鏡のような存在です。

私は、プロジェクトのスタッフのためにプレゼンテーションを行いました。なぜならば、私は、「彼らはプロジェクトを運営するためのお金がどこからきているのか、寄付を得るのがどれだけ困難であるのか、お金を正しく遣うことがどれだけ重要であるのかを知らないのでは」と、感じたからです。

私はコミュニティで、他の孤児の世話にも多くの時間を費やしました。たとえ、もし、彼らが私達のプログラムの一環でなくても、私は彼らを訪問し、彼らを地元の政府オフィスと結びつけることによって、それを行いました。

CICDでの私の事前研修期間中、私は時々、家に帰る機会がありました。そのため、私は私の友達の間でPartnershipを行いました。私は、家に帰る機会のあるあなた達の誰か1人が、同じことをすることをお勧めします。たとえ、それが小さな寄付でも、ここではとても重要で必要とされています。

私の小さな金額と一緒に、クリスマス前に、私はパンを作るための道具をあげました。コミュニティの人々は、今、それを作るためにとても真面目に働いています。彼らは、1月の終わりに、パンを生産するための準備をしました。（そしてピザも、私が教える予定です！）私のアイデアは、仕事のない5人の人達が収入とともにそこで働くことができ、コミュニティの孤児たちを支援することです。（彼らのために、彼らが本当に必要としているものを買うためや、病院へ行けるように）10人の弱っている孤児たちは、15歳までパン屋で昼食をとることができます。

これら全ての仕事の後、クリスマスとNew Yearはリラックスするための時間でした。中央モザンビークの全てのDI達は、Inhambaneという場所で一緒に時間を過ごしました。

モザンビークは美しい国です。とても大きいため、全てを訪ねることは不可能です。しかし、あなたがプロジェクトを何時間かかけて移動するとき、あなたは簡単に、例えば植物の違いなど、それぞれに違う部分を見ることができます。ここでの生活の4ヵ月後、私は、ほとんどここが自分の家のように感じ、私はここにずっと滞在したい気持ちです。私は、いつも、コミュニティの人々から驚かされます。彼らはとても愛すべき存在です。そして、彼らは、私達の文化を知るために私達と一緒に過ごすことが好きです。たとえ、彼らの一般的な考え方が、「私達がここに休暇のために居る、そして白人はいつも裕福である」というものであってもです。

私は、自分のプロジェクトが大好きです。たとえ、私がいつも自分が十分なことをしていないと感じてもです。プロジェクトは、たくさんの改善を必要としています。プロジェクトをもっとよくするためには、新しい考えと厳しい監督が必要です。しかし、コミュニティでの影響は、すでにとても強いものです。HIVについての知識は広がっており、人々はどのようにして病人と孤児を世話するかを学んでいます。そしてまた、彼らは、どのようにして家庭菜園や養鶏農場のような収入創出活動を始めるのかについても学んでいます。

## クリスマス後：プロジェクトでの最後の2ヶ月間

クリスマスの後に戻ったとき、少し異なっていました。私は、まだ自分の休暇と研究週間が2週間ありました。そして、私は、自分がやりたいことをやるだけの時間が、もうそんなないことを感じていました。そしてまた、コミュニティで働くことは、私を毎日、悲しくしていました。なぜならば、どこに行っても病気の子ども達がいる、彼らを病院へ連れて行く可能性がない現実には、私はいつも直面していたからです。車もなく、仮に車があったとしても、私は彼らを病院に連れて行くことができません。なぜならば、それは持続的に行うことができないからです。彼らにお金を渡す選択肢はありません。なぜならば、私は、彼らが病院に行くことにお金を遣わないことがわかっているからです。そして、もう一度言いますが、それは持続的に行うことはできません。

コミュニティにいる人々は、彼ら自身をどのように世話をするかを学ばなければなりません。だから、それについての知識を与える私達の仕事は重要なのです。

例えば、マラリアはモザンビークにおいて、いまだにたくさんの人々の命を奪っています。地元の病院へ行き、マラリアのテストを受けて薬を得るのに必要なお金は、わずか 6 メティカイス（モザンビークの通貨。約 3 つのパンが買える）です。他の病院では、これより安いときもあります。

この状況は、私に自然と何日かオフィスに滞在することを強いました。私は特に会計問題についてと、本当に必要とされている何かのために働きました。

私は、自分の最後の時間を、AGSP の女の子達と一緒に学校で集中して費やしました。同時に、私はクリスマス前よりも働きました。私はついに、AGSP プログラムのための全ての資料を整理し、2 人のトレーナーにどのようにそれを使うのかを、コンピューターと一緒に教えました。

プロジェクトを去る前、私達は配布するための教材を入手しました。私は、計画の立案者のために、小さな手伝いをすることができました。しかし、私はそれがとてもいいことだと感じていました。私がプロジェクトに来たとき、私の監督者は新任で多くのことを知りませんでした。しかし、今、彼女はたくさん成長し、プロジェクトでの多くの問題を解決するでしょう。私とスタッフの関係は、とてもいいものでした。それは、彼女のおかげでもあります。彼女はスタッフを教育し、そして私達 DI を信じました。なぜならば、私達は異なる知識をもっており、彼らは私達からたくさん学ぶことができるからです。

私は、自分のプロジェクトを去ることについて、あまり快く思いませんでした。しかし、私は彼らがいい仕事をすることを確信しています。

私は、プロジェクトで Madrinhas の行為を成長するための計画を立てました。しかし、私の残されたわずかな時間では、もし私のアイデアがよい影響をあたえても、私にそれを発見する機会を与えませんでした。（学校が始まり、従って私達は土曜日だけを使うことができました。そして、なおかつ、私は最後マラリアにかかっていたため、余計に時間がなかった）だから私は、アフリカでの自分の最後の期間に、自分のプロジェクトに戻りたかったのです。それには、新しいチャイルド・エイドの DI 達と話すため、そして彼らがもしアイデアを好んだとき、私の任務期間が終わるまで、それを一緒に行うためにでもありました。

期間の終わりには、私は本当に疲れていてストレスを感じていました。特に、コミュニティでパン作りを始める活動に対してです。私がこの活動を始めた頃、私はコミュニティと一緒に働くことが、こうも困難であることを想像していませんでした。白人で、女性であり、1 人である私が、全てを行うのは、難しいことでした。ほとんど毎日、私は何かの問題を解決しなければなりません。私は製造をチェックするために、毎回、そこへ行っていました。そして、労働者達が座り、待っているのを見ます…。何を待っているのでしょうか？彼らは昨日から、他の人を待っていました。私達はそこへ行き、かまどをするために労働者達を助ける計画を立てていました。もちろん、その人はそれにはいませんでした。しかし、たとえ製造が終わってなくても、ただ座っているだけではなく、彼らは何かをすることができます。

1 番、面白かったことは、20 日前のときに、私がある人がどのようにかまどをすればいいのかわからなかったことを発見したときです。

私は本当に、ニヤマトンダを去る前に、このプロジェクトを終わることができないと考えました。私は自分の友達のお金について考えていました…。彼らは、私を信じたのだ。そして、私はまた、全ての問題を見つけるための機会を持つため、事後研修をここで行う計画を立てました。しかしついに、私の最後の週に、私達は今後、パン屋の経営者になる人々と一緒に同意しました。私達は労働者を選び、10人の子ども達が毎日そこで食べれるようにしました。

私が去る前日、私はお店のオープン祝いをを行い、たくさんのパンを食べました。私はとても嬉しかったです。それは、ニヤマトンダに戻るもう1つの理由となりました。それは、どのようにプロジェクトが動いているかを見るためです。

私の経験で言えることは、もしあなた達のうちの誰かがアフリカで何かを行いたい場合、それは1人でしてはなりません。あなたのプロジェクトを始める前に、誰かがリーダー的な存在の人と一緒に、生産の仕事を指導するのを確実にして下さい。そして、あなたのプロジェクトリーダーに話してください。

最後の時間、私は自分の時間が終わったことを感じていました。私はもうこれ以上、何かをすることはできない、多くのことが終わらずに去るように、私は後ろで何かをしていたのだ—それは、普通に感じるのだと私は思います。だから私は、AGSPの女の子達のクラブで、彼らと一緒に踊り、教えるために、もっともっと時間を費やしたかったのだと思います。

6ヶ月という期間は、「変化をもたらす」には短い時間です。6ヶ月間はおそらく、ちょうどその場所を知るのには、十分な時間だと思います。それはただ、周囲を見渡し、状況を改善・向上するためのアイデアを思いつくのには十分です。それはただ、場所を知り、コミュニティの一部になるのに必要な時間です。それはただ、コミュニティの人々にとって、あなたを知るためには十分な時間です。そして、あなたが毎回、マーケットに行ったときに、あなたの名前を叫ぶのには十分な時間です。

私は、ニヤマトンダでの最後の数分間まで、することがたくさんありました。私はもちろん、去りたくないです。しかし、今は新しいものを見るときです。

私は、私達のできることをしました。たとえそれが十分でなかったとしても、私は今、そう感じています。私は、自分のプロジェクトで何かできたのか—私はそれがわかりません。しかし、この経験は私自身を成長させた—これは確かなことです。私はこの時間を、決して忘れることはありません。私は、自分が出会った全ての人々とプロジェクト以外の人々を私の心に保ち、彼らの全ては私に何かを教えてくれることでしょう。

***Don't give up and enjoy of the time in the school. It's hard, but remember that you have a dream... See you soon!***

Knec, 14 march 2008  
Laura from Italy, March Team 2007